

令和6年度 板橋区立学校経営計画表・自己評価表・学校関係者評価表

学校教育目標 ○明るく元気な子ども ◎よく考え根気強くやりとげる子ども ○仲よく助け合う子ども ○素直で礼儀正しい子ども
目指す学校像 すべての人(児童・教職員・保護者・地域の方)に居場所と出番があり、ともに学び続ける学校
目指す児童像 失敗を恐れずに新しいことに挑戦し続ける児童
目指す教師像 児童・保護者の思いに親身になって寄り添い、協働できる教職員

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		取組(努力)指標評価		成果指標評価		分析コメント	改善策
				取組(努力)指標	成果指標	中間	年間	中間	年間		
全教育活動	児童の主体性の育成	自ら課題を見つけ、改善に向けて、考え、行動できる児童の育成	特別活動、特に学級活動の発達段階や児童の実態に応じた計画的な指導を積み重ねる。	4 全学級で計画的に実施	4 児童アンケート項目「クラスをよくするために学級会で話し合い、何をするか決めていますか」の肯定的な回答率90%以上					学級活動は、自分の所属する集団を自分たちの力で、よりよくなる意欲、資質を育むために大変重要である。学校経営の柱の一つとして掲げたことで、少しずつ先生方が学級会の指導に力を入れ始めている。	特別活動は、全校で取り組むことに大きな成果が得られる。特に、学級活動(学級会)は、指導者も児童も回数を重ねることが大切であることから、来年度は、さらに学級会の指導について学ぶ場を設定する。
				3 90%以上の学級で計画的に実施	3 児童アンケート項目「クラスをよくするために学級会で話し合い、何をするか決めていますか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 80%以上の学級で計画的に実施	2 児童アンケート項目「クラスをよくするために学級会で話し合い、何をするか決めていますか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 計画的に実施した学級が80%未満	1 児童アンケート項目「クラスをよくするために学級会で話し合い、何をするか決めていますか」の肯定的な回答率60%未満	3	3	3	3		
学習指導	自ら課題を見つけ、主体的に課題解決を図る児童の育成	学習の基礎基本の定着した児童の育成	板橋区授業スタンダードに則した「分かりやすく、楽しい課題解決的な授業」を実施する。	4 全教職員が実施	4 児童アンケート項目「授業は楽しく、わかりやすいですか」の肯定的な回答率90%以上	4	4	4	4	各教員が、板橋区授業スタンダードの基本である問題解決的な授業展開を意識している。子供たちが「分かりやすい」と評価していることは嬉しいことである。	板橋区授業スタンダードを基本に、さらに個別最適な学びに向かう授業改善が求められている。校内研だけでなく、各自で主体的に授業力向上のための研修に出やすい日程を作成していく。
				3 教職員の90%以上が実施	3 児童アンケート項目「授業は楽しく、わかりやすいですか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 児童アンケート項目「授業は楽しく、わかりやすいですか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 児童アンケート項目「授業は楽しく、わかりやすいですか」の肯定的な回答率60%未満						
			カリキュラムを活用し、高島第一中学校の学びのエリアの3校で連携し、発達段階に応じた教育活動を実施する。【視点①】	4 全教職員が実施	4 児童アンケート項目「生活や総合的な学習の時間で、学校の盛りや高島平、板橋のことを調べましたか」の肯定的な回答率が90%以上	3	3	3	3	高島平や板橋を大切にする心を育む指導が発達段階に応じて行われている。しかし、学びのエリアの3校が、学習指導や生活指導について共通理解を進める必要があると考える。	年度当初に、学びのエリアの3校の担当が、合同研修の打ち合わせを行い、年間のめあて、研修計画を明確にしてから取り組む。
				3 教職員の90%以上が実施	3 児童アンケート項目「生活や総合的な学習の時間で、学校の盛りや高島平、板橋のことを調べましたか」の肯定的な回答率が80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 児童アンケート項目「生活や総合的な学習の時間で、学校の盛りや高島平、板橋のことを調べましたか」の肯定的な回答率が60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 児童アンケート項目「生活や総合的な学習の時間で、学校の盛りや高島平、板橋のことを調べましたか」の肯定的な回答率が60%未満						
生活指導	友達への思いやりがあり、いじめを許さない児童の育成	基本的な生活習慣と他者への思いやりを身につけた児童の育成	hyper-QUや生活アンケートを活用した学級集団、個人の状況把握に基づいた個別対応を充実させる。【視点④】	4 全教職員が実施	4 児童アンケート項目「学校では、楽しく過ごしていますか」の肯定的な回答率80%以上	2	4	4	4	児童一人一人を見取することを各教員が意識していることが分かる。また、学級集団におけるそれぞれの児童の立場を考慮して、対応している。	学級集団における児童の立場は、学級の目標やそれに向けた取組、役割が重要である。学級活動の充実も、児童の学級における居場所をつくることに他ならず、指導を充実させて行。
				3 教職員の90%以上が実施	3 児童アンケート項目「学校では、楽しく過ごしていますか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 児童アンケート項目「学校では、楽しく過ごしていますか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 児童アンケート項目「学校では、楽しく過ごしていますか」の肯定的な回答率60%未満						
			考え、議論する「特別な教科 道徳」の授業を実施する。	4 全教職員が実施	4 児童アンケート項目「道徳の授業で、友達と意見が合いません、自分の考えと比べていますか」の肯定的な回答率90%以上	1	3	3	3	道徳の授業の質的な改善を図る意欲が高まっている。道徳教育推進担当教員が、積極的に研修会に参加し、伝達しつれることで、授業の改善が進んでいる。	特別の教科 道徳の授業モデルを全教員で確認する必要がある。道徳教育推進教員に模範授業を見せてもらい、みんなで学ぶ機会を設定する。
				3 教職員の90%以上が実施	3 児童アンケート項目「道徳の授業で、友達と意見が合いません、自分の考えと比べていますか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 児童アンケート項目「道徳の授業で、友達と意見が合いません、自分の考えと比べていますか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 児童アンケート項目「道徳の授業で、友達と意見が合いません、自分の考えと比べていますか」の肯定的な回答率60%未満						
特別活動	児童の人間関係形成力の育成	自分も他者も大切に、話し合いを通して課題解決を図ることができる児童の育成	縦割り班活動において、児童の主体性を尊重した指導の充実を図る。	4 全教職員が実施	4 児童アンケート項目「たてわり班で楽しく活動できましたか」の肯定的な回答率90%以上	3	4	4	4	たてわり班の充実が、児童の思いやりや憧れの気持ち育てている。特に、下学年のことを考えて行動する高学年児童を学校全体で称賛し、それが児童の励みや誇りにつながり、よい循環を生んでいる。	たてわり班活動をより主体的なものにするためには、児童がゆとりをもって考える時間をつくる必要がある。特別活動部で、活動時間の見直しを図る。特に、児童に振り返りをさせ、そこから次の課題を見出し、解決に向けて取り組む活動に転換していきたい。
				3 教職員の90%以上が実施	3 児童アンケート項目「たてわり班で楽しく活動できましたか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 児童アンケート項目「たてわり班で楽しく活動できましたか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 児童アンケート項目「たてわり班で楽しく活動できましたか」の肯定的な回答率60%未満						
			ICS・学校支援地域本部を活用した児童、保護者、地域がかかわり合って学ぶ教育活動を推進する。【視点②】	4 年間5回以上実施	4 児童アンケート項目「地域のゲストティーチャーと楽しく学ぶことができましたか」の肯定的な回答率90%以上	1	2	2	2	少しずつ、地域の方や保護者の協力をもらいながら、教育活動を推進する意欲が高まってきている。	教育計画に、明示する。各学年の取組について、年間を通じた見直しをもって活動することが必要である。特に、「人との関わり合い」を重視した活動になようにねらいを焦点化する。
				3 年間3～4回実施	3 児童アンケート項目「地域のゲストティーチャーと楽しく学ぶことができましたか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 年間1～2回実施	2 児童アンケート項目「地域のゲストティーチャーと楽しく学ぶことができましたか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施しない	1 児童アンケート項目「地域のゲストティーチャーと楽しく学ぶことができましたか」の肯定的な回答率60%未満						
特色ある教育活動	共生社会の担い手としての資質・能力を育む児童の育成	お互いを尊重し、公平に関わり合える児童の育成	五組との交流学習を計画的に(各学期1回以上)を設定・実施する。	4 全学年が実施	4 児童アンケート項目「他の学年やクラスの友達と一緒に学んだり、遊んだりしましたか」の肯定的な回答率90%以上	3※	4	3※	4	できる活動は、通常級と5組で一緒に行う意識が高まっている。違いを認め合い、お互いのよさを認め合い、活動の充実に向けて取り組んでいる。	分け隔てなく関わる思いやりの態度を育てるために、大切なことは「実際に関わら合う」ことである。さらに、一緒に活動する場面を増やしていく。
				3 5学年が実施	3 児童アンケート項目「他の学年やクラスの友達と一緒に学んだり、遊んだりしましたか」の肯定的な回答率80%以上						
				2 4学年が実施	2 児童アンケート項目「他の学年やクラスの友達と一緒に学んだり、遊んだりしましたか」の肯定的な回答率60%以上						
				1 実施が3学年以下	1 児童アンケート項目「他の学年やクラスの友達と一緒に学んだり、遊んだりしましたか」の肯定的な回答率60%未満						
働き方改革	本校に勤める喜びを感じる教職員集団の形成	時間外在校時間を減らし、ライフワークバランスのとれた職場づくり	教職員全員で、常に教育活動の意義とそのための努力のプランニングを計画して計画・実施・振り返りを行う。【視点③】	4 全教職員が実施	4 教員アンケートにおいて、「自分たちのライフワーク/バランスのとれた勤務ができるか」の肯定的な回答が90%以上	3	3	2	2	明らかに、勤務時間内で業務を終えることは理想であるが、そうはならない現実がある。そういう中で、教員が子供たちのために努力する姿に敬意と感謝しかない。	ライフ・ワークバランスと言われると、業務時間の短縮ばかりに目がいき、本当に大切しなければならないことを見落し、かねない危険を感じる。何のための活動か取組の後に振り返り、改善する必要がある。教育活動の反省・振り返りを即時行うようにする。
				3 教職員の90%以上が実施	3 教員アンケートにおいて、「自分たちのライフワーク/バランスのとれた勤務ができるか」の肯定的な回答が80%以上						
				2 教職員の80%以上が実施	2 教員アンケートにおいて、「自分たちのライフワーク/バランスのとれた勤務ができるか」の肯定的な回答が60%以上						
				1 実施した教職員が80%未満	1 教員アンケートにおいて、「自分たちのライフワーク/バランスのとれた勤務ができるか」の肯定的な回答が60%未満						

学校関係者評価	総括評価(ABC)	分析コメント	